

よぬだ ところどころ



第三十八号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

信友 中山神社 天神洞 テンジンボラ



現在の中山神社（上写真）は元の場所から移転したものである。ここから、百餘ほど上がった山の山腹に鎮座していたと記載されている。用地が十分にとれなかったのかもしれないが、鳥居の方向が社殿と直角になっている。この中山神社の祭神は金山彦命（かなやまひこのみこと）である。美濃国一の宮の南宮神社とおなじで、南宮神社は古くは仲山金山彦神社と呼ばれていた。ここに「仲山」とでてくる。美作の国一の宮の中山神社も祭神は同じである。この中山神社の本源は多分このあたりであろうと考えられる。いずれにせよ、信友の中山神社は「たたら製鉄」にかかわる神社であり、これを祭神として祀る一族は刀剣製鉄に関与していたと考えてよいであろう。



ところで、この中山神社は以前からこの位置に鎮座していたかというところではないことがわかる。信友に鎮座する以前は「山本」の諏訪神社の鎮座位置といわれる。さらにそれ以前は、川辺の「下飯田」の中山であるとされる。「下飯田」の小字名の中に「中山」が見られることから信憑性がある。つまり、川辺「下飯田」から下米田「山本」に移動し、さらに下米田「信友」に移動したということである。（ただし、中山のこの三地名は地理的には距離が近くまったく同地域である）この移動に関わったのが「肥田」氏であるとされる。

「下飯田」の中山神社は火災で焼失したため、現在の諏訪神社の場所に遷座したが、肥田玄蕃の子長寿丸が山本に「諏訪神社」を勧請したため、中山神社は天神洞の現在地に移動したことになる。これが正しいとすれば、信州の製鉄勢力がその時代に下米田の地域に入ってきたということになるがどうか。